

9月14日会合報告

1) 10月20日チャリティコンサート

出演者：芹が谷中学校吹奏楽部・若山孝(キーボード)・和太鼓・Smow Lip(デュオ)
めでた屋本舗

フリーマーケット：メリアアイス工房・寄せ植え(未定)・ハーブドライフラワー(未定)
古着

当日手伝い：教師2名(障害のお子さんの付き添い) 民生委員4名
学生ボラ(声がけ済み)

ポスター：手配済み(ポスターが出来ましたら配布ご協力お願いします)

2) 9月21日(土)

予定しておりましたが 9月25日(水)に呼掛けでお集まりいただく親御さんとの会合を持ちますので **21日は取りやめます**。ご都合つくようでしたら25日にご参加お願いいたします。

在援協研修会ご報告

第二回9月12日(木)

* 飯野美保子氏(社会福祉士・まちの暮らしSOS主催)

「差別・いじめ・暴行は増えている緊張社会のストレスが弱者に当たる形で現れているのではないかと。事態を知らないと見過ごす、今日の話は聞くのは辛いかもしれないが感度を上げるために知ってほしい」と話し出されました。

被害状況(性被害<町に出るようになって>・いじめ・殺人・保険金目当ての犯罪)
人権侵害は3つの条件がそろって起こる(1強者と弱者の関係 2閉ざされた環境 3被害者が対抗手段を持たない)

何に気をつければ防止できるか!職員に出来ることは何か?

1) 強者と弱者の関係にならない

例：戸塚ヨットスクール(賤という名目で残っている体罰)

援助は本人の願いに沿ったもの・意思の疎通。相手の話を聞く(今まで本気で聞いてもらえなかった)。分かるように説明する(言葉・絵・写真等)肩を並べた関係

福祉の狙い：*相手の心を満たす *相手を安心させる *児：心や体の成長/者：自己実現に力を貸す営み

2) 障害者の居場所(作業所・グループホーム・地域)を閉ざされた場所にしない

* 市民の目と援助を積極的に活用

* 情報公開 広報

* 利用者の地域活動の参加するチャンスを日常的(清掃・花壇の手入れ)また季節の取り組みとして取り入れる

3) 本人に対抗する力(ノーと言える)をエンパワメント

その力を発揮できる条件を整える(情報提供・体験・人付き合いの場)

ナンシープログラム(イリノイ州立大学教授)2001年6月

本人・地域・支援者が一緒なり 地域活動として取り組むプログラム

人権侵害(虐待・搾取)とは何か? なぜ立ち向かえないのか? さあ や
ってみよう!(ロールプレイングによる体験学習) こうやったら立ち向かえ
る!! 自分達の権利を勝ち取ろう!!

「是非エンパワメント横浜版を皆さんでやってみてください」by 飯野氏

* 蒲生としえ氏(巡回相談員・心理セラピスト・てらん広場)

施設福祉から地域福祉への変革の流れ 個別支援&ケアマネジメントの必要性

障害を抱えて生きることを支援するということは 保護・指導・訓練ではない支援を!

多くの資源の活用が不可欠(まだ不十分)

1) アドボカシ - (人権擁護)活動との連携

当事者(ピープルファースト)団体との連携・オンブズマン

2) 行政・地権者・ケースワーカー等との連携

3) 民間のサービス業者(移動・家事サービスへのアクセス)

4) コミュニティーで生活する(一般企業/地域・教会等のキーパーソン/啓発活動)

入所施設で見られる成長の疎外問題&外部と接点の希薄さ

方法論

1) 多くの専門家(異職種スペシャリスト)・市民を巻き込む 個人的支援からネット ワーク支援 自分の限界を知る

2) 《多様なニーズ》は《制度的なニーズ》だけではなく《心理学的・生物学なニ ーズ》もある/ダウン症(躁鬱)・ブライダウィリー症(満腹感欠如)

第3回9月17日

* 室津滋樹氏(中区本牧活動ホーム グループホームの初期から関わる)

1) 自立とは?

自立生活(Independent Living)

自立の捕らえ方の変遷: 経済的自立 ADL(身辺自立) CIL(Center for IL)

自己決定の前に自立が必要: 支援を依頼できる(自分で決めない楽さ)

現状: 職員が喜ぶように動く 立場の強弱

体罰: もし(自分がしたことに対する罰)だと理解できるなら 違うアプローチが
ある。 理解できないなら体罰をしても無駄。 力によって相手を変えようと
しても 力や脅しで作る秩序はその場・条件だけのもの

2)生きていくために必要な援助を苦痛なく(介助を受ける辛さ)

同姓介護・子ども扱いしない・秘密の厳守・必要以上のことを聞き出さない

入浴介助時の介助側着服は恥ずかしい・部屋に勝手に入らない・バックやお財布を勝手にあけない・誤る・話をちゃんと聞く

2) 障害者が地域の中で生き生きと暮らす為に 一人の人間として充実した暮らしを送る為の場として作業所・グループホームを作った

3) 「障害が重いので受け入れできない」と言わなければならない状況はあるが 言われた家族・本人の思いをしっかりと受け止めてほしい

4) 周りの都合で生かされている障害者の現状、邪魔者、厄介者として、存在が否定されている障害者の現状を受け入れてしまうのではなく 疑問と怒りを持ち続けてほしい 同時に 自分達を振り返ってみてほしい

5) 作業所やグループホームが範囲を先に決めないで 「暮らしを支える」視点で考えていってほしい

「なぜ地域でと考えたか? 在宅訪問・施設の障害者」の部分が時間的にカットされたのが残念でした。

* 田廻 良弘(横浜商科大・中小企業診断士)

~ 社会人として望まれること ~

1) 誰も注意してくれることではないが 他人の不快さを意識してルール・マナーを守る

2) 心と態度の相互作用 挨拶が大切(知っていることとできることは違う)

3) 対応の基本:受け入れの準備 話をよく聞く(発散させ 自己整理を促す) 内容確認判断 適切な対応(簡潔な用件整理・話の打ち切り) フォロー

以上

影山氏(たすけあい 心)による講演会のご案内

日時: 10月26日(土)午後1時半~引き続き打ち合わせ予定

場所: 東戸塚 市民活動支援センター会議室

テーマ: 地域勝への想いと 課題

ドリームクロスプロジェクトで何が出来るかの参考になると思います!

次回打ち合わせ

日時: 9月28日(土)13時~15時

場所: 東戸塚 市民活動支援センター会議室